



JICHI MEDICAL UNIVERSITY  
SAITAMA MEDICAL CENTER  
自治医科大学

# さいたま医療センターだより

TEL.048-647-2111 FAX.048-648-5180 URL : <http://www.jichi.ac.jp/center>



(さいたま市緑区・山崎)

## センターだより 第27号 ご案内

- 新年のご挨拶（副センター長 小西教授）
- スタッフ紹介（がん薬物療法認定薬剤師 鈴木主任薬剤師）
- 薬の小窓・・・第5回 「薬の飲み合わせ」について
- 活動紹介・・・4A病棟：NICU・GCU（新生児病棟）のご紹介
- 皆さまの声におこたえします・・・センター内の空調設備について/院外処方箋 FAX コーナーの移設について
- お知らせ・・・本館病棟改修工事の開始について

## さいたま医療センター 理念・基本方針

### 理 念

1. 患者中心の医療
2. 安全で質の高い医療
3. 地域に根ざした医療
4. 心豊かな医療人の育成

### 基本方針

1. 患者の皆様を尊重し、開かれた安心できる医療を提供します
2. チーム医療を推進し、安全で質の高い医療を提供します
3. 地域との連携を深め、基幹病院としての役割を果たします
4. 地域医療に貢献する医療人を育成します



## 新年のご挨拶

副センター長

一般・消化器外科教授 小西 文雄

### はじめに

新年おめでとうございます。本年も皆様にとりまして実りある年でありますことを願っております。一昨年は自治医科大学さいたま医療センター開院以来20年にあたり、その前年には、南館（新館）がオープンして許可病床数608床（現病床数は586床）に拡張いたしました。この新棟には、既存の診療科の拡張のみでなく、産科、小児科を新設いたしました。昨年5月からは、小規模ではありますが周産期母子医療センターが活動を開始いたしました。地域に密着した高度な新生児医療及び周産期医療の提供を目指し、地域周産期医療センターとしての役割を果たしながら、子どもを産み育てる環境づくりを整備することを目指しております。また、開院以来病棟として使用してきました本館につきましては、本年より病棟ごとに順次リニューアルを行い、南館同様の最新の設備をそなえた病棟に改築する予定であります。このような流れの中で新年を迎え、私どもは、本年も地域の中核病院としてのさらなる発展を目指しております。

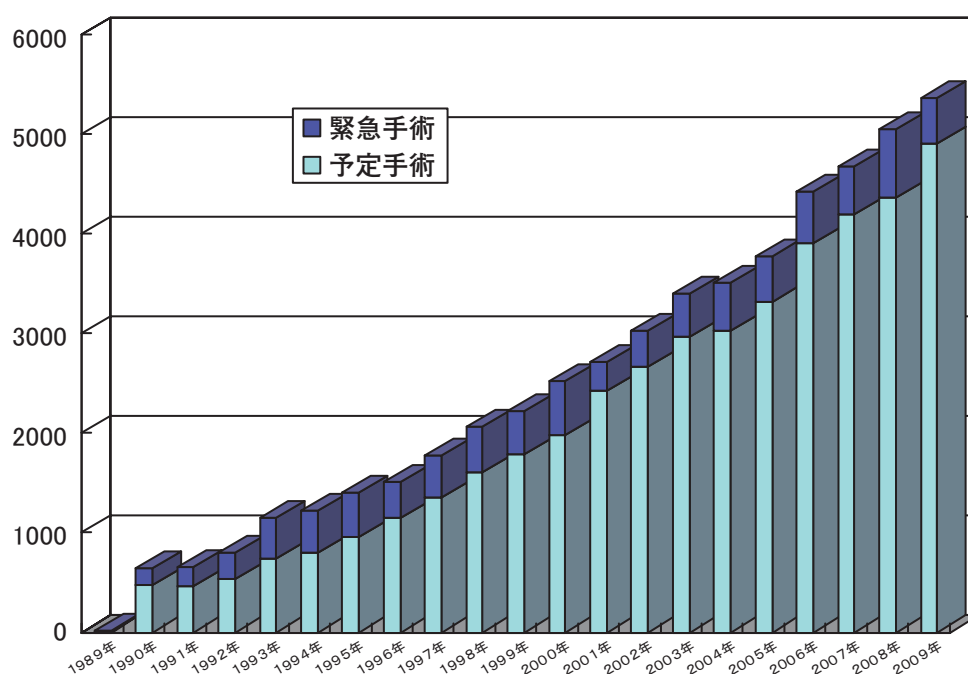
### 外科手術の状況

さいたま医療センターは、内科領域のみならず外科領域におきましてもさいたま市の医療の中心的な役割をはたすべく努力を続けており、手術を必要とする多くの患者さんをご紹介いただいて、年々手術件数が増加してきました。私が責任者をつとめております中央手術部におきましては、2009年には年間手術症例数が5000例を越えました。2009年6月には4部屋の新たな手術室が増設され、これらのうち2部屋は、内視鏡外科手術（腹腔鏡、胸腔鏡）専用の手術室としての機能を有しており、今後いっそう増加すると考えられる低侵襲性手術である内視鏡外科手術に対応できる体制が整えられております。一方、増加する外科系患者さんの手術に対する迅速な対応につきましては必ずしも十分とは言えず、現在でも手術を受けるために多くの患者さんにお待ちいただいているのが現状であり



ます。この状況を解決するためには、中央手術室に増設された4部屋をフル稼働させることによって、より円滑に手術を施行する体勢を整える方向で検討がなされております。また、南館2階に開設されております日帰り手術室を有効利用し、眼科手術や泌尿器科の小手術のみならず、将来的には全身麻酔による鼠径ヘルニアや胆嚢摘出術などの手術を施行し、手術待ちの患者さんに少しでも円滑に手術を受けて頂けるように取り組みたいと考えております。そのためには、センター全体の問題でもある看護師の増員など、今後我々に課された課題に取り組まなければなりません。

### 年間手術件数の推移



### 若手医師の教育

私どもは、レベルの高い医療を充実させるとともに、若手医師の養成にも毎年積極的に取り組んでおります。初期研修医につきましては、初期臨床研修制度が発足して以来毎年3倍程度の倍率で応募者があり、定員20-22名の一般初期研修プログラムは毎年フルマッチングであり、最近では応募者のレベルも向上してきていることを実感しております。研修開始時には、講義によるオリエンテーションやシミュレーターを用いた技術指導を行っており、各診療科とも初期研修には特に力を注いで取り組んでおります。患者さんの診療や技術的指導のみならず、カンファランスにおける症例呈示なども日常的に指導し、また、文献から得られた知識をどのように個々の症例の診療に役立てるか等、生涯教育の基礎を培う教育を行うように心がけております。初期研修医や後期研修医等の若手医師が毎年新たに入ることは、病院自体の活性化をもたらすものである

ことを実感しております。研修医が指導医から学ぶことに関しては一定の成果があがっていると思われませんが、一方、研修医における自主性や積極性がやや欠けていることもあり、その点は今後に取り組むべき課題であろうと思っております。また、若手医師の教育の一環として国際的な視野を身につけることを目的として、1年に4回2週間単位で米国人教授に滞在していただき、当センターにおける研修医の米国式臨床研修の教育を行っていただいております。また、英語による症例呈示や討論を行うカンファランスも定期的に施行しております。内科系におきましては、シニアレジデントに米国ワシントン大学における年1回2週間の研修の機会を与え、また、消化器一般外科におきましても、やはりシニアレジデントを対象として、昨年からはオーストラリアの Royal Brisbane Hospital および Townsville Hospital における2週間の海外研修を実施しております。このように若手医師を発展的に教育することは、次世代の担い手を生み出し、当センターの発展につながるものと確信しております。

### 自治医科大学の附属病院としての役割

自治医科大学は、日本全国における地域医療の担い手となる自治医科大学卒業生を教育する医科大学であり、その医学部在学中の教育の一部に、附属さいたま医療センターにおける臨床実習 (bed side learning) があり、2週間単位で自治医科大学のすべての学生が当センターの学生用宿泊施設に寝泊まりして臨床実習をうけております。当センターでは、栃木の自治医科大学附属病院とはやや異なった、より臨床に直結した実習が受けられる点、将来の地域医療の担い手を教育するよい環境であろうと思われれます。自治医科大学の学生は卒業後、各県にもどって初期研修を含めて9年間地域医療に従事いたします。その9年間の義務年限の中で、臨床能力を brush up するために、卒業生の所属する県によっては自治医科大学の卒業生に附属病院（栃木）や附属さいたま医療センターにて1－2年の臨床研修（後期研修）を受けるチャンスがあり、さいたま医療センターでは、開院以来このような自治医科大学卒業の後期研修医を受け入れてきております。このような自治医科大学卒業生は、1－2年の研修の後、再び地域に戻って研修の成果を地域医療に役立てて活躍しており、当センターは、自治医科大学卒業生の再教育の機関としても機能しております。

### おわりに

このように、自治医科大学附属さいたま医療センターは、さいたま市を中心とした地域の中核的医療を担っているとともに、自治医科大学卒業医師を含めた若手医師の教育に重点をおき、今後のさらなる発展をめざしております。皆様方におかれましては、このような我々の使命をご理解いただき、今後ともご支援ご鞭撻のほどお願い申し上げます。



がんばってます!

## スタッフ紹介

がん薬物療法認定薬剤師  
主任薬剤師 鈴木 栄

現在、抗がん剤は、新薬が次々と開発され、標準治療方法も数多く報告されています。抗がん剤のみならず、吐気止めの新薬も発売されており、がん化学療法を取り巻く環境は、目まぐるしく進歩し続けています。

このような状況の中、私の主な業務は、①医師・看護師をはじめとする医療スタッフへの適切な情報提供、②抗がん剤治療を行っている患者様への情報提供です。このうち、②については、患者様向けに、点滴の順番や投与スケジュール、使用薬剤の特徴と副作用の対応・対策、日常生活での注意点などを

わかりやすく記載したパンフレットを作成したり、それを用いながら患者様に直接服薬指導を通じて説明を行っています。



## ～化学療法で点滴を受けられる患者様へ～

点滴中の注意事項として、次の5項目は、患者様ご自身でも常に観察して頂きたいことです。

点滴部位の安全確保と薬剤に対するアレルギー反応の初期症状ですので、早期発見・対応は、安全対策上、重要なこととなります。是非ご協力ください。



- ☐ 点滴の針を刺している部分に痛みを感じた。
- ☐ 点滴が漏れてきた。
- ☐ 気分が悪くなってきた。
- ☐ じんましん、発疹、顔がほてる。
- ☐ 心臓がドキドキする。

**\* 点滴中にこのような症状が起きましたら、すぐ医療スタッフにお知らせください。**

私は、薬剤師の立場から、抗がん剤を服用されている患者様も同様、化学療法を行う上で副作用にも十分注意しながら治療を行っています。副作用の症状や程度は使用する薬によっても異なり、個人差もあるため、それぞれの患者様に同じ症状が現れるとは限りません。

そのためには、患者様ご自身でも体調の変化などに注意していただき、異常に対する早期発見・対応をされることが安全に治療をしていく上でとても重要になってきます。日々の症状や気になったことなどを記録しておく、次回からの治療の参考にもなります。

これらの業務を介し、今後ともチーム医療（医師・看護師・放射線技師・臨床検査技師・管理栄養士・薬剤師・その他の医療従事者）の一員として、患者様に少しでも安心して治療を受けていただけるよう、努めてまいります。



## 第5回



## 「薬の飲み合わせ」について

薬剤部  
大谷 幸代

今回は「薬の飲み合わせ」についてのお話をしましょう。

## 1. はじめに

「薬の飲み合わせ」には薬と薬、薬と食品との相互作用が考えられ、特に身近な一般食品との相互作用が話題になります。その代表的な例として、カルシウム拮抗薬（高血圧症に用いられる）とグレープフルーツジュースの関係や抗凝血薬ワーファリン（血栓・塞栓症の治療や予防に用いられる）とビタミンKを多く含む食品等の関係が挙げられます。今回はこの二点についてお話します。

## 2. グレープフルーツジュースとの相互作用

既に皆さんもカルシウム拮抗薬とグレープフルーツジュースについてはご存知でしょう。

カルシウム拮抗薬はグレープフルーツジュースと一緒に服用すると、薬剤の作用が強くなり、副作用（過度の血圧低下等）を発現する可能性があります。

ですからカルシウム拮抗薬の添付文書には、「グレープフルーツジュースとは同時服用をしないように注意すること。」と記載されています。商品名：アムロジン（OD）錠はその相互作用が弱く、添付文書にその注意書きが記載されていませんでしたが、今回の改訂で同様に表記されました。（海外での報告より）



## さらに詳しく

通常は経口投与された薬物が肝臓、小腸で薬物代謝酵素のチトクローム P450（主に CYP3A4）により代謝されます。しかし、グレープフルーツジュースの中にはその CYP3A4 を阻害する物質があるために影響が出る可能性があります。以前は、グレープフルーツジュースの苦味成分のナリンジン等が原因物質とされていましたが、最近ではフラノクマリン類による可能性が指摘されています。（文旦やそれらの交配種にも含まれています。）

これまでの多くの研究結果から、CYP3A4で代謝を受ける薬物とグレープフルーツが相互作用を起こすことは明らかですし、またその代謝能は個人差が大きく、薬剤の種類によっても影響にかなりの違いがあります。ですから薬効（血圧低下作用）に対してまで著しい影響が出たという研究報告はあまり多くありません。

以上のことから一概に「薬物と一緒にグレープフルーツを摂取することは厳禁」と単純に判断するのではなく、個人差の影響、相互作用を危惧する薬物の副作用の症状と程度、高齢者など影響を受けやすい対象者など、個別の状況を考慮して柔軟に対応することも可能と考えられます。

参考：これだけは知っておきたい 飲食物と薬の相互作用 藤村昭夫編著より

### 3. ワーファリンとの相互作用



抗凝血薬ワーファリンは肝臓において凝固因子のひとつであるプロトロンビンの生成に必要なビタミンKの働きを阻害することによって抗凝血作用を現します。したがってビタミンKを多く含む食品を摂取することにより、ワーファリンの作用を弱くさせる可能性がでてきます。

ビタミンKを多く含んでいる食品で特に注意を要するものに「納豆」があります。納豆にはビタミンKが含まれている上に、納豆菌は腸内でもビタミンKを産生します。したがって、納豆を1回食べただけでトロンボテスト（ワーファリンの作用の投与指標となる）の値を変動させる可能性があります。



納豆以外ではクロレラ、青汁、緑黄色野菜等があります。比較的良好とされる野菜でビタミンK含有量の多いものにはホウレンソウ、ブロッコリー、キャベツなどがあります。1回だけ大量に摂取した場合では、影響は見られませんでした。1週間連続して大量に摂取した場合、トロンボテスト値が有意に上昇したということです。しかし、野菜については特に制限する必要はないとの見方が一般的です。

当センターではワーファリン服用患者様への服薬指導の際、**食べることを控えて**いただきたい食品について、次のように説明しています。

☆絶対食べてはいけないもの・・・**納豆・クロレラ・青汁**

☆一度に大量に食べてはいけないもの・・・**緑黄色野菜・海藻類**

例えばホウレンソウ、ブロッコリー、アスパラ、キャベツ、モロヘイヤ等

⇒ 一度に連続して沢山食べなければOK

☆効き目を強めるもの・・・**大量のアルコール類**

### 4. まとめ

食品と薬物との相互作用を考えると、食べてはいけないものを食べてしまうと健康被害が発生する可能性が高いので、注意してください。

また、通常適量を食べても良いのに、健康被害の可能性を恐れて食べずに済ますことも、栄養素の偏りやQOL（Quality of life：生活の質）の低下につながりますので、食品の一時的な大量摂取を避け、バランス良くとることが大切と思われます。

もちろん薬は、水（または白湯）と一緒に服用しましょう。

\*\*\* 次回は、「実は薬が沢山余っているけど…」という患者様の話より、  
では「飲み忘れをしないようにするには？」また「残った薬は？」というような  
「薬の管理」について考えてみましょう。\*\*\*

こんにちは

## 4A病棟：NICU・GCU（新生児病棟）です



ここ4A病棟は、新生児病棟として昨年5月に開棟し、順調に診療が行われています。

新人や異動スタッフも新しい業務に慣れ、新生児の看護にやりがいを感じているところです。



## 病棟スタッフの声をご紹介します



## 4年目看護師（集中治療部より異動）

昨年4月に4A病棟へ異動してきて、約9カ月が経ちました。赤ちゃんの看護をするのは初めてで、わからないことだらけでしたが、ベテランの先輩方の支えもあり、少しずつ赤ちゃんのことがわかってきたように思

います。また、新人看護師の指導者にもなり、新人さんたちと一緒に学んだり感じたりして、ともに成長していくことができました。これから多くの赤ちゃんに関わることになりませんが、常に温かい気持ちで赤ちゃんの看護を行っていききたいと思います。



## 7年目看護師（他施設より異動）

私は5年間他施設のNICUに勤務し、たくさんのかわいい赤ちゃん達やそのご家族と関わってきました。その中で、より専門的な知識を学びたいと思い助産師の資格を取得しました。同時期に当センターに地域周産期センターが開設されることを知り就職し、現在の病棟に配属になりました。新しい病棟のため

日々スタッフ同士が意見を出し合いながら、赤ちゃん達とご家族にとって最善の養育環境になるよう努力しています。赤ちゃん達が1日も早く元気に成長し、新しい家族のスタートがよりよいものになるように頑張っています。





当センターでは、患者の皆さまの声をセンター運営に反映させていただくため、外来・病棟各所にご意見箱を設置し、随時回収しています。

今回は、皆さまからのご意見が数多く寄せられている、「センター内の空調設備について」、および「外来処方箋FAXコーナーの移設について」を取り上げ、ご説明させていただきます。

### センター内の空調設備について

当センターのエントランスホールや待合廊下などは、中央管理方式（ダクト方式）を採用しており、中央機械室にある空気調和機によって温度、湿度、流量などを集中的にコントロールし、更に換気も含め、ダクトから一定風量で室内に供給しております。



ホール吹き出し口



空気調和機

温度調節は、四季（夏季・冬季・中間期）を通じて行っており、日中の外気温や方位による日射条件の変動、ホールや待合室の混み具合による温度変化などに空調機が追従して室温をコントロールしております。

また、病室内の空調設備につきましては、天井に換気用の吹き出し口があり、床置型のファンコイルで室温を調節しております。



天井の吹き出し口



床置型ファンコイル

ご意見箱の中に、空調に対する苦情として、冷房期間前の5月上旬ころ「暑い」との声が寄せられることがあります。これは、夏季シーズンに入る前の冷水発生装置の点検整備を実施しているため、冷房の供給ができないことによりです。

また、冷房期間中に冷えすぎて「寒い」、冷房が弱すぎて「暑い」などの声をいただきますが、これは、先にご説明したことに加え、空調機や附帯機器などの故障が考えられ、その場合は速やかに現場に赴いて対応しております。

更に、「暑さ」「寒さ」の感じ方は、性別や個人差およびその時の体調により左右されることなどから、調整には困難が伴いますが、今後とも、センター内の患者様が少しでも快適に過ごせる環境づくりに努めて参りますので、ご理解ご協力をお願いします。

## 外来処方箋FAXコーナーの移設について

院外処方箋 FAX コーナーをエントランスホールから中央廊下に移設したことについて、以前より場所が遠くなり、不便になったとの声が寄せられておりますが、移設した理由は、次のとおりです。

近年外来患者さんの増加に伴い、エントランスホールから外来受付1の周辺にかけて大変混雑するようになりました。以前のFAXコーナーが設置されていた場所は、患者さんの動線をふさぐように設置されていたため、混雑時には、車いすやストレッチャーの通行に支障を来すようになりました。そこで外来患者さんのスムーズな通行を最優先に考え移設することにしました。

なお、これまで医療費の計算後に処方箋をFAXいただいておりますが、計算前にFAXいただいても結構です。ただし、保険証に変更があったり、FAX送信後、処方内容に変更があった方は、再度FAXいただくことになります。

ご不便をおかけしますが、ご理解いただきますようお願いいたします。



## 本館病棟改修工事の開始について

当センターでは、地域の皆様の医療需要に応えるべく増床及び外来等の改修整備を行ってきたところですが、本館については築20年を経過し給排水等設備の老朽化が見られるため、このたび病棟（4階から6階）のリニューアルを実施することになりました。

病棟リニューアルの概要は下表のとおりですが、工事に際しては細心の注意を払い、工事影響を可能な限り最小限とする所存であります。

工事期間中は、騒音、振動、工事車輛の通行等で大変ご迷惑をおかけいたしますが、ご理解、ご協力の程よろしくお願いいたします。

また、工事は病棟ごとに順次行って参りますが、工事の前後において病棟の仮移転を行う必要がございますので、ご協力いただきますよう重ねてお願いいたします。

### 1 改修工事の概要

| 工事内容             | 工事期間（予定）             |
|------------------|----------------------|
| 事前準備工事（外部リフト等）   | 平成23年1月から平成23年2月頃まで  |
| 本館病棟（4階から6階）改修工事 | 平成23年3月から平成25年5月頃まで  |
| エネルギーセンター設備改修工事  | 平成23年1月から平成25年11月頃まで |

### 表紙写真 編集後記

表紙写真（さいたま市緑区山崎）  
みぬま田んぼから 富士を眺める 撮影：福沢事務部長

本年も皆さまに少しでも当センターについてご理解いただけるよう、情報を発信して参りたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。（Y）